

ムラサキシメジの露地栽培法

福島県林業研究センター 林産資源部
平成15～18年度林業研究センター業務報告
分類コード 18-16-10000000

部門名 林業一食用きのこ栽培方法
担当者 古川成治・青砥裕輝

I 新技術の解説

1 要旨

ムラサキシメジは、他のきのこが発生しなくなる晩秋に発生するという利点があり、少量多品目生産の1品目になると考えられる。そこで、宮城県で開発したマウンド法を参考にして、菌床埋込適地、菌床埋込個数、時期、系統選抜を行い、本県に最適なムラサキシメジの露地栽培条件を明らかにした。

- (1) 菌床は針葉樹バーク堆肥、フスマを10:1～1.5(容量比)で混合、加水し、含水率は65%とする。容器はP.P製の袋で、詰め込み培地重量は2kgである。殺菌は高圧殺菌釜で100℃で60分間蒸らしたのち121℃で90分間である。培養は22℃で60日間行う。
- (2) 培養も完了した培地を、1マウンドあたり2～3個野外に置床し、まわりの落葉をかける等の操作を行うのが良い(図1)。
- (3) 培地の伏せ込み地は、広葉樹林、アカマツ林が適している(図2)。
- (4) 培地の伏せ込み時期は6～8月まで可能だが、発生個数のバラツキの少ない7月下旬までに埋め込むのが良い。収量は系統、伏せ込み地により異なるが、1マウンドあたり20～25個程度が見込める(図2、3)。
- (5) 収穫は、子実体のかさがまんじゅう型の時に行うと良い。

2 期待される効果

- (1) 農林業の複合経営の一つの作目として有効であり、農閑期の現金収入に役立つものと期待される。

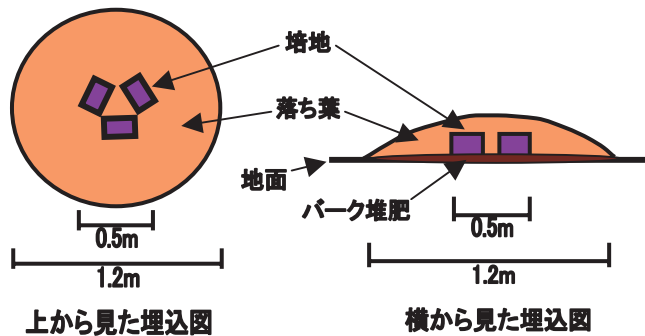
3 適用範囲

きのこ栽培者、農林家

4 普及上の留意点

- (1) 自ら菌床を製造する場合は、培地にバーク堆肥を使用するため十分に殺菌する必要がある。
- (2) 適地は自然に落ち葉が堆積するような場所である。乾燥に弱く風の当たる場所は避けるとよい。落ち葉が少ないところでは、事前に落ち葉を集めておく必要がある(1マウンドあたり90%程度)。また、8～10月に月1回程度見回り、落ち葉の量が少なくなった場合には、落ち葉を補充することが必要である。

II 具体的データ等



落ち葉マウンド法概略図

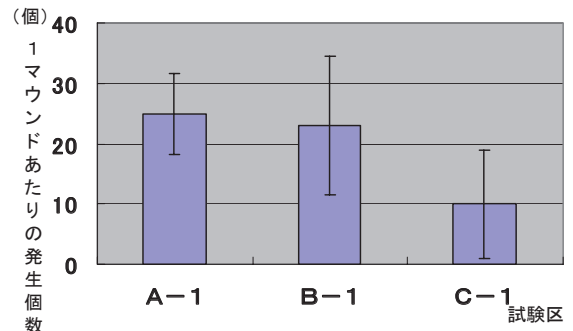


図1 マウンドに埋め込む菌床個数とムラサキシメジ発生量との関係

試験区 A-1 : 2kg菌床 3個
B-1 : 2kg菌床 2個
C-1 : 2kg菌床 1個

バーは、標準偏差を示す。
試験は、広葉樹林内で平成19年に行っている。

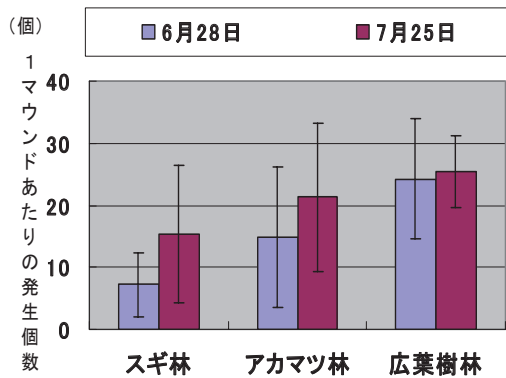


図2 菌床埋込地別、時期別のムラサキシメジの発生量

バーは、標準偏差を示す。
試験は、平成18年に行っている。

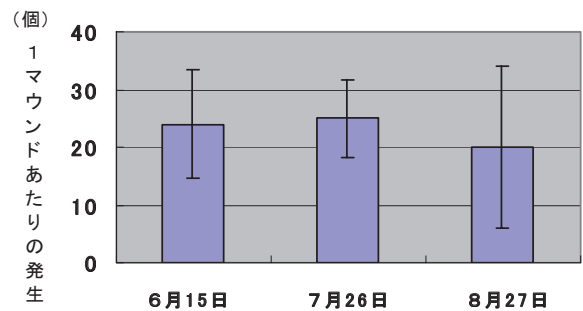


図3 菌床埋込時期別のムラサキシメジの発生量

バーは、標準偏差を示す。
試験は、広葉樹林内で平成19年に行っている。

III その他

1 執筆者

古川成治

2 主な参考文献・資料

- (1)「野生きのこ商品化事業(第2報)ームラサキシメジの人工栽培の確立ー」宮城県林成報,13,40-50(2000)
- (2)「ムラサキシメジ菌床栽培法について-菌床設置個数と設置時期の検討-」東北森科8回要旨集,57(2003)
- (3)「ムラサキシメジの露地栽培における菌床埋め込み適地の検討」東北森科12回要旨集,54(2007)